

平成19年度 岡上こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	特定非営利活動法人川崎児童健全育成会コッコロ
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	岡上こども文化センターの管理運営に関すること 岡上小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	常勤職員が開室時間に最低1人配置するローテーションを実施。アドバイザー（非常勤職員）によるこ文職員への指導。社会福祉主事任用資格者を常勤職員として採用。	アドバイザーを配置し、館長への指導やわくわくプラザ職員への指導相談等を行っていたことは評価できる。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	昨年度に引き続いて、来館者の様子を見ながらニーズの把握を図ることにし、特にパソコンについては子ども達の要望が大きかったが、機械の旧式化に起因するアダルトサイト制限が行えないために使用制限をした。同時に運営協議会の要望として健全育成施設として体を使った遊びを中心にしてほしいという要望があり、集会・学習室の移動壁を取りミニホッケースペースの運動用にし、図書・遊戯室に移動壁を設置して遊戯室に卓球台常置にした。安全面からの要望として、集会・学習室に窓ガラス破損防止用に木格子を設置した。	利用者の要望を基に部屋の模様替えを行ったり窓ガラス破損防止用木格子を設置したことは評価できる。ニーズの把握については、意見箱の設置等より多くの意見を把握できるよう工夫をすること。
サービスの提供に関すること	行事運営は、体験的活動として竹とんぼ作成・空気の重さ計り（科学実験教室）などで外部講師に依頼し、日常生活で体験する機会が少ないものを体験させた。日常として隔週実施の駄菓子屋さん映画会で、今年度は椅子で映画を見るようにし、街中の映画館の雰囲気体験させ、映画の鑑賞方法を学べるようにした。障がい児対応は、保護者が事前申告されたものはその旨で対応し、乳幼児の保護者で悩んでいる場合には保健福祉センター・児童相談所を紹介し、紹介先職員の意見を聞きながら子ども達と接した。地域住民参加は、地域団体との共同行事を実施した。管理面では清掃を徹底し清潔感を最優先した。	行事については、実施方法についても工夫が見られた。また、障害児や乳幼児の保護者からの相談については、関係機関と連携をとりながら対応を行っていたことは評価できる。
事業の実施に関すること	日常活動は、集会室の予約表を廃止し子ども達が直接交替ができるように配慮し、こども同士のコミュニケーションが取れるように配慮した。利用の動機付けは「**の日」などを設けて利用者が興味を引く行事を定期的に設けた。幼児向けは「おっこサロン」の毎週火曜日固定実施をし、「交流の場」を提供した。中高生向けはナイトシアターを月1回開催することにより、映画を鑑賞する機会を設けた。地域住民の利用促進は、おっこサロンの利用者がダンスクラブを結成するなど、場の提供からの発展が見えた。	幼児向け、中高生向けの行事を積極的に実施していたことは評価できる。今後は、把握したニーズを具体的な事業の実施に繋げるルール作りなど工夫をすること。予定していたクラブ活動が実施されていないため、早期の実施に努めること。

個人情報の取扱いに関する事	わくわくプラザ申込書などの個人情報の記載された書類の管理に関して、施錠できるキャビネットに保管する等の処置を取った。パソコンデータに関しては、セキュリティソフトの導入などで、外部からのアクセスから防御する対策を実施した。	個人情報の取扱いについては、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する事	昨年度に引き続き、施設内外の整備清掃の徹底、利用者への声かけ、夜間機械警備の導入、防犯カメラの設置（わくわくプラザ）、AEDの設置、避難訓練の実施、立入禁止区域の標識設置、エントランススタイルの滑りやすいか所に注意標識設置をした。	わくわくプラザでの防犯カメラの設置や施設内へ注意標識を設置し施設の安全に配慮したことは評価できる。また18年度から法人としてこども文化センターへAEDを設置した。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 17,488人 延べ団体利用数 3,552団体 (主な行事等) おかつこサロン おかがみふれあいまつり (特色のある行事) お年玉使い方教室 (こども文化センター・わくわくプラザ合同行事)	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 岡上小学校わくわくプラザ 登録者数 165人 延べ利用者数 8,094人 (主な行事等) 映画の日と駄菓子屋さん (こども文化センター・わくわくプラザ合同行事) ミニ縁日 (特色のある行事) 落語会 (こども文化センター・わくわくプラザ合同行事)	比較的こども文化センターと近いので、こども文化センターと連携した行事を行っていた。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(3) 収支状況		
① 収支状況	(単位：円) 収入 指定管理料 33,435,428 支出 人件費 28,493,260 管理費 3,854,962 事務経費 885,383 その他経費 257,393 合計 33,490,998 差引 ▲ 55,570	経費の支出については、指定管理料以上の支出となったが、ほぼ指定管理料と同額の執行となった。

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

施設の安全を確保するため、こども文化センターでの施設補修や窓ガラス破損防止用の格子設置、わくわくプラザに防犯カメラの設置等を積極的に実施していた。またこども文化センターでは、ニーズに合わせ模様替えをするなどニーズを取り入れた運営をするよう努めていた。こども文化センターでの「おかつこサロン」や麻生区保健福祉センター・すぎのこ保育園との共催事業「岡上子育て安心広場」といった幼児やその保護者向けの事業を積極的に取り組んでいたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

利用者ニーズの把握については、日ごろの聞き取り、地域からの意見等も重要だが、普段意見を伝えられない利用者等のため、意見箱やアンケートの実施は有用であるので実施に努めること。また、事業計画にあるクラブ活動の早期実施すること。事業の実施に当たっては、地域の状況に合わせ特色ある行事の実施等を行い、目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。